倶知安中学校　誕生１周年特集

駆け抜けた１年を振り返って
倶知安中学校の“今”と“未来”を見つめる

平成25年4月、倶知安町に新しい、そして唯一の中学校・倶知安中学校が誕生しました。それからの月日は、全てが初めての連続でした。特に、旧倶知安中学校と旧東陵中学校の生徒だった2・3年生（当時）にとって、学校の統合とは生活環境の変化そのものでした。全てが手さぐりの中、学校全体で協力し合い、助け合いながら学校生活を送ってきました。

新生倶知安中学校が誕生し、1年が経過しました。この1年を振り返るため、初代生徒会長・中村連人くんと、桝井孝校長にインタビューを実施しました。今月の特集では、2人の目に映った倶知安中学校の1年と、今後の倶知安中学校の展望をご紹介します。

初めてづくしの1年を、生徒、教職員たちが何を思い、何を目指し過ごしてきたのか。これからの倶知安中学校をどのような学校にしていきたいのか。倶知安中学校の“今”と“未来”を見つめてみましょう。

学校教育目標

○　考える人
○　はたらく人
○　協力する人

校章は、倶知安町の町花「キバナシャクナゲ」をモチーフにし、何事にもくじけず我慢強く、明るく美しい人に育ってほしいという願いが込められている。

「倶」の文字には、その漢字の意味のように「人として道理が備わる」「周囲とともに行動ができる」よう育ってほしいという願いが込められている。

「倶」の周りの囲みは、中学校統合のイメージと、町の人々の両腕を表し、生徒一人ひとりが地域住民の腕に優しく抱かれながら、健やかに成長し、自らの力で未来を切り開いてほしいという願いを込めている。

写真で振り返る倶知安中学校の１年間

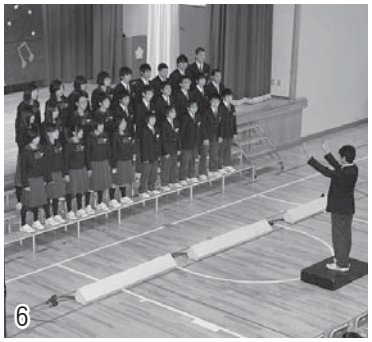
1

2

3

4

5


6

7

8

倶知安中学校の最初の1年間。全てが初めてで、全てが発見の日々。倶中が積み重ねてきた1年間を少しだけご紹介します。

1. 第1回入学式（H25.4.9）
   新しい制服に身を包んだ新入生たち
2. 開校記念式典（H25.5.2）
   新しい中学校の誕生を記念して
3. 第1回体育大会（H25.6.1）
   クラス一丸となって跳んだ大縄跳び
4. 部活動の試合（野球部／H25.6.30）
   日頃の努力とチームの結束を発揮
5. 3年生修学旅行（H25.9.4）
   絆を深めた3泊4日の旅
6. 第1回学校祭（H25.10.19）
   美しく響き合うみんなの歌声
7. 英語公開授業（H25.12.16）
   北陽小・倶高と連携して進めました
8. 第1回卒業式（H26.3.14）
   倶知安中学校一期生の卒業

中村　連人　くん
倶知安中学校第一期
卒業生
初代生徒会長

「東陵中学校から新しい校舎に移っての学校生活でしたが、不安は特にありませんでした。友達の中には不安を口にする人もいましたが、僕の中ではあえて挙げるとすれば、人数が増えることが気にはなっていました」

そう話してくれたのは、3月に倶知安中学校を卒業した中村連人くん。中村くんは、初代生徒会長でもあります。

「4月から新しい生活が始まって、最初は人数が増えたことの影響が確かにありました。東陵中は東陵中、倶中は倶中という風にグループが出来ていました」

このようなグループが出来るのは、小学校から中学校へ進学した時に、多くの人が経験したことでしょう。新生倶知安中学校でも同じことが起きていました。

「でも、僕のクラスは1カ月後には完璧に打ち解けていました。統合前に、東陵中と倶中で何度か交流を持てたことが大きかったと思います。人数が増えたことで人間関係が広がって、友達が増えるというのは生徒にとって良かったと思います。僕の友達の中には、人間関係が広がったことでイメージが変わるほど明るくなった人もいます」

中村くんは、2年生のときにも東陵中で生徒会長をやっていました。

「2年生のとき、卒業式で読んだ送辞を当時の担任から褒められたのが嬉しかったです。僕の送辞に対して答辞を読んでくれた卒業生がとても格好良かったのを覚えています。新しい学校をより良くしたいという思いもありましたが、僕も答辞を読みたいという思いもあって、生徒会長になりたいと思いました」

中村くんの願いは叶い、3月14日の卒業式では答辞を読みあげました。

「在校生に、『日々の幸せを仲間と共に分かち合ってください』というメッセージを送りました。僕の学校生活も日々の幸せの積み重ねでした。みんなにも、そのことに気付いてほしいと伝えられたのが良かったです」

最後に、4月から2年目を迎える母校・倶知安中学校に対する思いを語ってくれました。

「統合前に役場の方から取材を受けたときにも言ったのですが、後志一の中学校を目指してほしいと思います。そのためには、礼儀と地域との関わりが大切だと思います。挨拶がしっかり出来ること、もっと地域の方と関わること。全生徒が登下校時に町民の方に挨拶できるようになればそれが理想だと思います。また、ボランティア活動に力を入れることも大切だと思います。そういうことができれば、穏やかな校風のもと、後志一の中学校になれると思います」

新しい歴史が始まったばかりの倶知安中学校。卒業生の思いを継ぎ、後志一の中学校を目指す挑戦が、これから始まります。

桝井　孝　校長
初代倶知安中学校長

中学校の統合にあたって、桝井校長は次のような不安を抱いていました。

「それぞれの学校での学級を解体し、両校が混じり合う形で再編成しました。それによって、新しい学級、新しい担任ということになります。やはり、上手く混じり合えるかが最大の不安でした」

学校の統合は、生徒のみならず、保護者にも不安がありました。

「保護者の方からも、学級や担任を変えないでほしいという声を聴きました。不安を抱える子どもたち、それを支える保護者の方々にも当然不安があったのだと思います」

子どもや保護者の不安に応えるため、教職員側もさまざまな努力と工夫を重ねました。

「3年生に関しては、本来なら5月に実施する修学旅行を、9月に実施しました。統合後すぐに旅行では効果が薄いと思ったからです。まずは、統合後に学年としてまとまることが最優先だと思いました。実際、学級担任には学級としての個性を出すより、学年として同じ姿勢で臨むよう伝え、そのように取り組んでもらいました。最初は硬かった雰囲気も、6月の体育大会ではまとまりを感じるようになりました。9月に実施した修学旅行では、旅行行事の効果を最大限得ることができたと思います。」

人数が増えることについて、不安以上に期待もあったと桝井校長は言います。

「人数が増えるということは、切磋琢磨する相手が増えるということです。一人一人考え方も違いますので、子どもたちの視野も広がると思いました。この1年間では、具体的な数字になって効果が出たわけではありませんが、個人的にはいい影響が出ていると感じています。」

この1年、上手くいったこともありますが、一方で課題も見えてきます。

「旧倶中、旧東陵の先生が多く着任していたこともあり、それぞれの学校のスタイルをお互いに理解し合うことの難しさは感じました。もちろん難しいことは想定されていたので、事前の打ち合わせを十分に行い、共通理解を図っていきました。」

最後に、1年間で見えてきた課題を克服し、町内唯一中学校として目指す姿を教えてもらいました。

「かつては5つの中学校があり、統合を重ね、ついに1校になりました。かつての5校にあった伝統や校風は、この倶知安中学校に確かにつながっています。ただ新しい中学校ができたのではなく、先輩方が築き上げた伝統や校風を一つに集約した、それが倶知安中学校です。その重みを大事にし、これからの倶知安の中学校教育をしっかり担っていけるような、新倶中スタイルを教職員、生徒で協力して創り上げていきたいと思います。」